

I 実践

1 研究主題

互いに認め合い、誰に対しても思いやりの心を持ち、助け合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「心豊かで健やかで、たくましく行動できる児童を育てる

ーかしこく やさしく たくましくー」を教育目標としている。

本校の児童の多くは、明るく元気で素直である。しかしその反面、一部の児童は自己中心的な行動や相手を思いやる気持ちに欠ける言動をとり、周囲とトラブルになることも少なくない。また、家庭環境によって、基本的生活習慣の形成や道徳性の個人差も見られる。

そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が相手の立場を思いやれる心や助け合う心の育成を図り、『自分の大切さ・他の人の大切さをお互いに認めること』ができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 児童が安心できる居場所となる学級づくり

イ 人権に親しむことのできる充実した環境づくり

ウ 豊かな体験活動

2 実践内容

(1) 児童が安心できる居場所となる学級づくり

ア あいさつ運動・あいさつの励行

朝や帰りのあいさつでは、元気よくあいさつを交わしている。あいさつをすることでいち早く児童の様子や変化に気づけるよう努めている。

イ お誕生会

「お誕生会」を給食時に行っている。みんなで誕生日おめでとうと言い、牛乳で乾杯をする。一年に一度の特別な日を友達にも祝ってもらえるとみんな嬉しそうにしている。祝福してくれる友達や家族への感謝の気持ちを育てている。

ウ 自主学习ノートの活用

自主学习ノートを使って、悩みや相談など教師に伝えたいことを書くことを行っている。教師もそれに対して一言を書き込むことで、個人差はあるが、児童理解や児童との関係の深化に役立っている。自分の自主学习ノートなので、他者に見られることがないので普段話しづらいことを書く児童も見られ、心の安定も図られている。

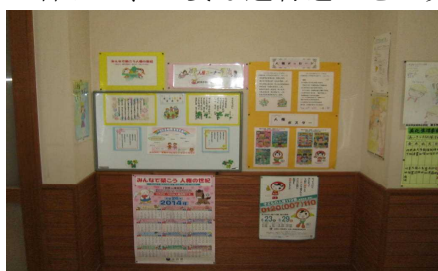
(2) 人権に関心をもつことのできる充実した環境づくり

ア 人権教育用ビデオの活用

人権教育に関するビデオを視聴し、道徳教育に役立てたり、人権メッセージを作成したりしている。作成した人権メッセージは、人権啓発推進センター主催の「人権についてかんがえてみませんかーあなたの思い・わたしの思いー」に応募し、各教室に「道徳・人権コーナー」を設置することで、児童への人権意識を高めることにつながっている。

イ 人権コーナーの設置

全児童の目にふれる機会の多い昇降口の横通路に人権コーナーを設置している。人権メッセージの優秀作品やポスターを掲示したり、心に響く詩を掲示したりすることで、人権への啓発の場としている。ポスターや詩は学期に一度変えて、児童の実態に合わせ、必要な題材選びを工夫している。



人権コーナー（昇降口横）



道徳・人権コーナー（学級）

(3) 豊かな体験活動

ア 異学年集団との交流活動

兄弟学級（１年生と６年生、２年生と５年生、３年生と４年生）で、交流給食を実施した。ランチルームで児童相互の協力で食事環境を整え、会食することにより、食事を通したマナーを育て、交流を深めている。

異学年集団との交流活動を通して、上級生は下級生の面倒をみることで思いやりの心が育ち、下級生は、上級生に親しみをもって接することができた。また、学年を越え誰とでも仲良く活動することの楽しさを学ぶことができた。

イ 地域高齢者との交流

４年生児童が、地域の高齢者とふれあい会食会を実施した。坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて、音楽やダンスを発表したり、一緒にゲームや会食をしたりと楽しく交流することができた。

また、地域の敬老会に参加し、長寿を祝って、５・６年生の合奏団の児童が器楽の合奏を行い、４年生は児童合唱を披露し、１年生児童が作文発表をした。６年生は米寿のお祝いメッセージを心を込めて書くことで、敬老会に参加された方を敬うことができた。

ウ いじめZERO集会

全校児童で、いじめについて考える場を設け、自分たちの身近な問題として考える事で、友達への接し方や優しさを考えられるようになった児童が多くいた。また、NHKの「いじめを考えるキャンペーン めざせ！１００万人の行動宣言」に参加したことで、児童１人１人がいじめに対して考えを書き、人権に大きく関わる問題と向き合う機会となった。

エ 環境ボランティア・福祉のつどいボランティア

全学年で、学校内の除草やゴミ拾いなどの清掃を実施した。「自分たちの学校を大切にする心」を育てるとともに、「奉仕の心」を育てる活動を行っている。また、地域の催し「福祉のつどい」では、児童が模擬店を出店するなどのボランティアを行った。元気のよい呼びかけが、参加した地域の方から好評だった。



いじめZERO集会



福祉のつどいでボランティア

3 成果

- ・ 「いじめZERO集会」の取り組みでは、いじめに関する参考資料などを使っていじめの残酷さなどを考えた。そのため、児童一人一人が、いじめについて「人の気持ちや命の大切さを考えて、いじめと思われるようなことを絶対しない。」「みんなにやさしくする。みんなとなかよくする。」など、自分の行動目標を立てたことで、人権問題に関する意識が高まりにつながった。
- ・ 学校や地域で行う行事や地域の方々との体験を通して、相手を思いやる気持ちが育ってきている。また、友達との関わりの中で、学習・生活全般を通して、友達を思って行動したり、友達に気遣ってもらうことで、友達の良さを発見したり、自尊心の高まりが見られたりなど児童同士の関わり合いの中で、豊かな心が育ってきた。

II 今後の課題

子供たちの人権に対しての意識を高めるために、まず教師が積極的に人権に関する研修会に参加したり、校内で研修会を開いたりして、人権尊重の意識の醸成に努めていく必要がある。併せて、保護者への啓発を図り、各家庭でも人権に対する意識を深めていくことが大切である。そして、日々の学校生活の中や授業との関連を図り、身近にとらえられる例を挙げて人としての生き方や人への接し方のよさを求めていけるようにしていきたい。